

032 ガリラヤで伝道を始める

マタイ 4 : 13~16、マルコ 1 : 21~28、ルカ 4 : 31~37

▶ガリラヤで伝道を始める（マタイによる福音書 4 : 13~16）

13 そして、ナザレを離れ（→家族や共同体との別離）、ゼブルンとナフタリの地方にある（伝道の拠点とするため）湖畔の町 カファルナウム（＝ナホムの村、慰めの村）に来て住まわれた。→ゼブルンはナザレを、ナフタリはカファルナウムをイメージできる。旧約時代、初期のイスラエル部族がパレスチナ北部に定住した。しかし、新約時代には、多くの異邦人（非ユダヤ人）が住んだ。

→カファルナウム Capernaum は、ガリラヤ湖の北岸にある重要な漁業の町で、エジプトとシリアを結ぶ主要な貿易ルート上にあった。当時、ここは強制的に税金集めをするローマ兵の拠点であった。イエスはナザレからカファルナウムに移った（ヨハネ 2 : 12）。ガリラヤ湖は山々に囲まれ、北からヨルダン川が注ぎ込み、ゲネサレト湖（ルカ 5 : 1 のみ登場）、ティベリアス湖（ヨハネ 6 : 1、21 : 1）としても知られる。

14 それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

→闇の中を歩む民は、大いなる光（＝イエス）を見／死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた（イザヤ書 9 : 1）。

15 「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、／異邦人のガリラヤ、
16 暗闇に住む民は大きな光（＝イエス）を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

▶汚れた霊に取りつかれた男をいやす（マルコによる福音書 1 : 21~28）

21 一行はカファルナウムに着いた。イエスは、（会堂管理者の要請で）安息日に会堂に入って教え始められた。

→安息日は週の七日目であり、神が天地を創造された後、休まれた日である（創世記 2 : 2、3）。安息は休息を意味し、すべてのユダヤ人は安息日に仕事をやめるように定められていた（出エジプト 20 : 8~11、申命記 5 : 12~15）。会堂は集会を意味するギリシア語シナゴグの訳で、共に祈り、聖書を学ぶために集う共同体を指している。

22 人々はその教えに非常に驚いた（→文語訳：人々その教に驚きあへり）。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

→律法学者たちは、過去のラビたちの教えを引用し、その上に自分の教えを付け加えただけで、何の権威もなかったが、イエスの教えは、誰の権威に依存することもなく、自分の権威をもって教えられた。

→律法学者は、ユダヤ教の学者で、律法を研究し、その教えに従っていかに生きるかを説いた。旧約の 5 巻であるモーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）に基づいて教えた。また、律法学者の多くは律法や律法についての言い伝えを筆記する仕事をしていた。

23 そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれ（体の内側に悪霊が住みついている）た男がいて叫んだ。

→汚れた霊、すなわち悪霊はサタンに仕えていると考えられた。ここで、悪霊に取りつかれるとは、悪霊が人の中に住みつき、ある種の精神的錯乱状態や肉体的不調を用いて、その取りついた人を直接的に支



配する状態を指していると考えられた。また、当時は、悪霊や悪魔が様々な病気や心の病の原因と見なされた。悪霊に取りつかれた人は不浄とされ、他のユダヤ人と食事をしたり、礼拝したりすることも禁じられた。

24 「**ナザレのイエス**（→出身地ナザレを付すことで、同じイエスという名の他の人々から区別した）、**かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。**」

→この汚れた霊は、イエスが誰であるかを知って、神が選ばれた聖者と見なして叫んだ。

→「おい、ナザレのイエス！ おれたちをどうしようというんだ。おれたちを滅ぼすために来たんだろう。あんたのことはよく知ってるぜ。そうとも、神の聖なる御子よ！」（リビング・バイブル）

25 イエスが、「**黙れ。この人から出て行け**」とお叱りになると、

26 汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。

27 人々は皆驚いて、論じ合った。

「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」

28 イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方（→パレスチナ北部、ヨルダン川とガリラヤ湖の西に位置する）の隅々にまで広まった。

▶**汚れた霊に取りつかれた男をいやす**（ルカによる福音書 4：31～37）

31 イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。

32 人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には権威があったからである。

33 ところが会堂に、汚れた悪霊（→悪霊は悪魔に仕える霊）に取りつかれた男がいて、大声で叫んだ。

34 「**ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。**」

35 イエスが、「**黙れ。この人から出て行け**」とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。

36 人々は皆驚いて、互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じると、出て行くとは。」

37 こうして、イエスのうわさは、辺り一帯に広まった。